

第 15 回 逗子の未来協議会 前文案に対する意見

私たちは海と山に囲まれた美しい自然を大切にしてきました。これからも、この恵まれた環境で、健康で文化的な生活を得るために、皆で知恵を出し合って協力しましょう。

すでに様々な取り組みが行われてきましたが、人口減少や財政問題など課題は多くあります。このままでは、まちの魅力はうすれ、緑は風化し、そしてここに住む市民をはじめ私たちは元気がなくなってしまいます。

- 「財政問題」 ⇒ 「高齢化」
- 「人口減少や財政問題」 ⇒ 「人口や財政」 ※広い視野と長い目で捉える。
- 「緑は風化し」 ⇒ 「緑は損なわれ」

私たち市民、議会、市長は、お互いに尊重し合いながら、課題に対し自ら行動をし、時に意見を交換していきましょう。

- 「私たち市民、議会、市長は…」 ⇒ 「そのため、私たち市民、議会、市長は…」
- 「私たち市民、議会、市長は…」 ⇒ 「私たち市民、議会、行政は…」
- 「時に意見を交換していきましょう」
⇒ 「時に意見を交換して、まちづくりを進めていきましょう」
- 「時に意見を交換していきましょう」 ⇒ 「意見を交換していきましょう」
- 「お互いに尊重し合いながら」 ⇒ 「互いに尊重し合いながら」
- 「行動をし」 ⇒ 「行動し」

1950年に逗子町として独立した時の、「自分たちのまちのことは、自分たちで考える」という自治に対する想いを、進展させていきましょう。逗子市の未来を築きましょう。

- 「「自分たちのまちのことは、自分たちで考える」という…」
⇒ 「自分たちのまちのことは、自分たちで考えて決めるという未来を築きましょう」
- 「逗子町として独立した時の、…」 ⇒ 「逗子町として独立しました。」
- 1950年逗子市独立が唐突に感じる。新しく越してきた人も思いを巡らせることができようように、もう少し自然に、違和感がないように経緯を含めて肉付けをしてほしい。

- 1950年独立～いい言葉、先輩の決断である。未来へつなぐことであり、残すべき。
- 逗子の歴史として重要。まちの歴史を知るのは大切。この程度の抽象的表現ならOK。
- 逗子を愛しているなら、逗子がどういうまちか知っていてよい。まちを知る一つになる。
- ↓
- 独立という具体の問題に触れない方がよい。将来、制約が出ないように、先人のように我々もそうしよう、という程度でよいのではないか。
- 具体的に書くと議論を呼ぶ。

私たちはこの高い理想をかかげ、ここに逗子市自治基本条例を制定します。

- 「高い理想をかかげ、ここに…」
⇒「高い理想をかかげ、市民及び市長、議会の役割を明らかにし、ここに…」」
- 「高い理想をかかげ、ここに…」⇒「高い理想をかかげ、その実現のため、ここに…」」

<全体について>

- 従来の枠組みでは問題解決ができない、新しいことができない。
⇒市民の意見を集約し、地域の課題を解決する枠組みを条例として確保する。
- なぜ今、自治基本条例？なぜ今、市民協働？が見えにくい。⇒前面に出す
- ↓
- 具体的な内容は、賛成反対が出てくる。前文で賛否を呼ばないようにするため、多くの人がそうだという内容にまとめた。
- 具体的に書くと異論が出るというのは重要な観点。具体性に踏み込んでおらず丁度よい。
- みんなの条例だから、みんなにわかりやすく、子どもでもわかるように考えた。細かなところ、物足りないところは条例でみていただく、その挨拶のための前文としてまとめた。
- 前文案にはやりたいことがたくさん書いてある。具体的にするのは条例ですればよい。
- 今までのようにやっていたらダメ。
⇒DNAを思い出して頑張ろう、と改めて問いかける条例。
- 文章はわかりやすい。

- 前文の構成は、背景→課題→行動の順に整理をした方がよりわかりやすくなる。
 - 独立はどちらかという背景に入れる。
 - 条例をつくる目的、理由、どういう課題があるか。これを3部構成の中で示す。
 - 構成は、行動→意見交換ではなく、意見交換→行動ではないか。
- ↓
- 最初に結論を書いて、行動するとまとめた。読み上げることのできる前文にした。
 - 元気がなくなる→だから条例をつくる、という流れで、まちの課題というマイナスから始まっている印象を受ける。
- ⇒前向き、未来志向、市民の誇りを前面に押し出す。
- 未来の部分、追加を。
 - 最低限伝えたいことを前文へ。
 - 前文はあいさつの意味では？
- ↓
- 何をやりたいのかをきちんと示す。
 - 全ての人々が納得することはあり得ない。議論はする、納得するかしないかは次のステップ。今回、様々な意見が出たので、それを咀嚼してもう一度組み立てなおしてほしい。

<アンケートに記載された意見>

- ・ 前文にこめる思いは「どういう市にしたいか」が込められていれば、伝われば、その後の本文を読んでもらえる可能性があがると思うので、そういった意味ではこの前文案で最初の3行に入っている「恵まれた環境」を守る、より良くする為の決意表明としての前文と読めたのでこの方向でよいと思います。
- ・ 前文は「どうしたいのか」という想いを表現するものであると思います。検討メンバーで十分に熟慮され、大事な要素をすべて盛り込んでいただいていると思います。その中で3つめのセンテンス「自分たちのまちのことは、自分たちで考える」というDNAを受け継ぎ、どのような未来を築くためにこの条例を制定するのかということがもっとストレートに（ハートフルに）伝わるとより良い前文になると感じました。
例えば、「自分たちのまちのことは、自分たちで考える」という自治に対する想いを受け継ぎ、逗子のまちを愛する一人ひとりがこのまちを創っていく主人公として逗子市の未来を築きましょう。
「逗子のまちが好き」という気持ちは居住歴に関係ないマインドだと思うので先人たちのDNAをしっかり受け継いで、皆が“主人公”“自分ゴト”として逗子の明るい未来を創っていくための条例であることが伝わる表現にさせていただけると嬉しいです。
- ・ 前文は歴史認識、未来に対する見通しが一連のストーリーのもとになり哲学と文章力で情熱的にまとめる必要があると思った。

- ・ まず条例の前文で①背景・理由・課題 ②課題・問題 ③解決方法・手段と整理し、それを集中的に議論し、その精神・筋書きによって条文をつくり、再び最後に前文の見直しをするという仕組みがあってもよいのではないか、必要ではないか。
1950年独立の背景・原動力となった市民自治の内容・実態があったのか？そしてそれ以来の自治の実態がどんなものであったかの専門的調査は皆無なのか？実態の把握なしで頭から自治のあり方を条例という形で市民に与えるのは前時代的ではないか。
- ・ 前文の尊重に行政が入っておらず、反対意見もなく、行政には言いつぱなしでもよいという感情があるのではと感じる。